

I. 貴施設に関すること

1. 施設名 (小樽市立脳・循環器・こころの医療センター)
2. 所在地 (北海道 小樽市)
3. 設置主体 (小樽市)
4. 施設の種類の (A) 病院 B 有床診療所 C 無床診療所
D 助産所 E 介護老人保健施設
F 訪問看護ステーション
5. 許可病床数(病院のみ) (222)床
6. 病床区分(複数選択可) (A) 一般病床 B 療養病床 (C) 精神病床
7. 看護単位の数 (8)単位
8. 一般病棟入院基本料区分(病院のみ) ・ 7:1 ・ 10:1 ・ 13:1
 ・ 15:1 ・ その他
 療養病棟入院基本料区分 ・ 20:1 ・ 25:1
 精神病棟入院基本料区分 ・ 10:1 ・ 13:1 ・ 15:1
 ・ 18:1 ・ 20:1
9. 新人看護職員の指導体制
 専任の看護教育部門 A 有 (B) 無
 看護部門の専任の教育責任者 (A) 有 B 無
 (※注:「専任」とは、専ら、院内の継続教育を業務とする看護職員を配置している場合をいいます。)
10. 平成24年4月30日時点での看護職員数(実人員) (179)名
11. 10. のうち、新人看護職員数(実人員) (10)名

(※注1:「新人看護職員」とは、免許取得後に初めて就労する保健師、助産師、看護師又は准看護師をいいます。)

(※注2: 5. から8. については、平成24年4月30日現在にてご記入ください。)

II. 新人看護職員研修内容に関すること

1. 研修期間 (12) か月

2. 研修プログラム

時期 (月) ※1	医療機関受入研修の対象 ※2	研修テーマ	形式※3 (該当項目に○を付けて下さい。)		研修場所 (※4)	時間数 / 日数	研修内容
			講義	演習			
4月		新採用時オリエンテーション	○	○	部署外 研修室、大会議室	24/3	・市立病院で働く看護職員の基礎知識・倫理綱領 ・個人情報保護・医療安全対策・感染防止・接遇マナー ・看護必要度・災害時の対応・看護部の組織、理念、方針 ・DPCについて・院内案内など
4月	○	新採用者基礎技術研修①	○	○	部署外 研修室	8/1	・意識、徒手筋力テストの測定方法 ・麻痺のある患者の移動・褥瘡の予防 ・食事介助・口腔ケア・与薬法(経口、座薬) ・採血法・感染防止の技術
4月	○	新採用者基礎技術研修②	○	○	部署外 研修室	8/1	・血糖測定とインスリン注射・与薬法(静脈内、皮下、筋肉内注射)・採血法・点滴ルート確保 ・輸液ポンプ、シリンジポンプの使用法 ・輸液管理の実際 ・放射線科における検査の注意事項 ・報告方法(SBAR)
4月	○	新採用者研修③	○	○	部署外 研修室	8/1	・排泄の介助(導尿留置カテーテルの挿入) ・排便、座薬、浣腸・喀痰吸引 ・酸素ボンベの取り扱い ・危険予知トレーニング ・経管栄養法
5月	○	新採用者研修④	○	○	部署外 研修室	8/1	・モニター安全講習・BLSについて ・正しい検体の取り扱い ・看護記録について ・ハイリスクな薬品の取り扱いと薬剤に関する医療事故について ・経管栄養、胃ろうについて
6月	○	新採用者研修⑤	○	○	部署外 研修室	4/1	・「多重課題」シミュレーション ・ストレスマネジメント
9月	○	新採用者研修⑥	○	○	部署外 研修室	4/1	・KYT講義とグループワーク ・これまでで印象に残った場面を振り返り、「私が看護で大切にしてきたこと」を振り返る
12月	○	新採用者研修⑦	○	○	部署外 研修室	4/1	・輸血療法の実際について ・看護倫理について(講義とグループワーク)

3月	○	新採用者研修 ⑧	○	○	部署外	研修室	4/1	・看護で自分が大切にしてきたこと ・次年度に向けた課題の明確化
----	---	-------------	---	---	-----	-----	-----	------------------------------------

- ※1 時期には実施月をご記入ください。
 ※2 医療機関受入研修として公開している研修に○印を記入して下さい。
 ※3 形式には講義・演習の当てはまる方に○印を記入して下さい。両方に○印を記入しても差し支えありません。
 ※4 新人自身が所属する部署の場合「部署内」、自身の所属する部署以外の場合「部署外」と記入して、さらに、具体的な場所を記入して下さい。
 ※5 行が不足した場合、適宜追加してご記入ください

3. 研修の指導体制の詳細(各看護単位、看護部門)

【看護部門】
 専任の研修責任者の下、教育委員会を設置し研修の企画・運営を行っている。
 教育委員は、主査7名、師長1名の計8名で構成している。
 【各看護単位】
 各看護単位においては、実地指導者と教育担当者を置きOJTにあたっている。

4. 医療機関受入研修内容の周知方法・時期など

- ・3月～市内の病院に4月開催の新採用者基礎技術研修の案内を郵送
- ・4月～市内の病院に新採用者研修の年間予定を郵送
- ・5月～病院のホームページに今年度の研修計画を更新
- ・6月～市内の医師会会報誌に年間計画書と院外からの研修参加者を募っていることを告知

5. 医療機関受入施設数(※今年度中の予定も含めて、ご記入ください) (2)施設
 6. 医療機関受入研修の受入可能人数(実人員) (* 10名以内)名
 7. 医療機関受入研修の受入人数(実人員)
 (※今年度中の予定も含めて、ご記入下さい) (3～4名/各研修につき)

* 6. について……10名程度は受け入れ可能と考えているが、工夫次第ではこれ以上の受け入れも可能。

Ⅲ. 新人看護職員の到達度等の評価に関すること

1. 評価方法（医療機関受入研修に参加している医療機関へのフィードバックも含めて、自由にご記入ください）

・研修の評価は、研修後のアンケートや小テスト、事後レポート、研修中の受講者の発言や表情などから行っている。アンケートやレポートなどは、その集計結果が出た時点で各看護単位や医療機関へ情報として提供し参加側の医療機関に結果を郵送している。また、研修時に記入してもらった提出物（レポート）があれば併せて郵送している。ちなみにアンケートは、感想や要望などの記入欄を多く取り、受講者がその日の研修を振り返ることができるようにしたいと考えている。

Ⅳ. 事業の評価等に関すること

1. 医療機関受入研修の実施にあたって工夫した点（自由にご記入ください）

自施設を中心に考えてしまいがちなところであるが、自施設と他施設で使用する物品の規格や運用方法の違いがあると言ったことを忘れずに指導する側が認識すること。

研修を企画する側としては、他施設からの受講生は少人数であり上手く研修に馴染めるであろうかという不安を多少抱いていたが、特別な配慮や工夫をしなくとも馴染んで参加できているようだ。

2. 医療機関受入研修の効果および評価に関すること（自由にご記入ください）

当施設に入職してくる新人看護師は、付属の看護学校から入職してくる看護師が多くを占め、学生時代から共に学んできた、いわば気心の知れた仲間が多い。しかし、他施設の情報を得たり、多様な価値観に触れることで刺激を受けている部分がある。